

郷土文化財紹介

石造物シリーズ

＜道標と古道＞

「右ハ山口渡みち 左ハ信州田立道」

古い道標(どうひょう、みちしるべ)が、坂下のあちこちに残っています。昔はその地点が二又であった事を教えてくれます。坂下の町中で目につきやすいのは、坂下公民館斜め前の道標です。「右ハ山口渡みち、左ハ信州田立道」と刻まれています。



↑坂下公民館右斜め前の道標

「山口渡みち」は、平岩用水沿いに乙坂を経て万場平(相沢・新田)へと進む道で、河岸段丘に沿って大変なだらかです。そのまま直進すれば、また道標に出会います。この道筋には、1600年代中頃この地を開拓したであろう人達の古い屋号を持つ家々が点在しています。

「信州田立道」は、公民館裏の古い坂道を進む道です。本町通りにぶつかり、右は河岸段丘を落ちるように降る坂道で、「乙坂(おとぎか)」と言われ西方寺へ続く道です。左へ折れ伊織屋(庄屋、酒屋)の前、町筋を進み右手の丸三ポンプと西尾急便の間を通る小道で旧医師宅を経て旭町に出ます。松田宅、末松宅裏の道を利用し東町と新町境に出ます。さらに阿寺断層崖の坂道を上鐘住宅へ向かって進み、笠置電業社資材置き場奥で木曾川河畔猿鼻へ下って田立へと入って行きます。ここへは坂下神社境

内南下部より平畑裏へ河岸段丘崖に沿って真直ぐの古道がありますが、さらに平畑裏から天神平(町組墓地)を横切り入り込んでいます。これらの道は、西古道の一部ではないかと考えています。笠置電業社資材置き場の近くには馬頭観音も2基確認されます。馬頭観音は馬や人の安全な道行きを願う道しるべであり、馬の供養の場でもあるようです。

「右ハ村道 左ハふなと道」

次の道標は、野村鉄工所斜め前の三叉路を坂下病院へ向かって直ぐに古道が横切っていますが、この辻の右側にあり、「右ハ村道、左ハふなと道」とあります。



↑筏の渡し場誘う道標

「左ハふなと道」は上記道標で紹介した「山口渡みち」の続きです。先に進むと阿寺断層崖にぶつかり、右折し直進すれば宿の井筒屋を経て船渡(ふなと、筏場とも言う)で木曾川縁に出ます。対岸下方には山口発電所がみられますが、そこへ向かって渡しの筏が出ていました。

「右ハ村道」については、「むらみち」と読むのがふさわしいと考えます。これも船渡へ繋がるのですが、服部モーター脇、施宿弘法(アゼチ松井氏の墓所 施宿弘法を参照)、オナダ(屋号)を経て船渡に至る道です。松井氏から聞くと、かつては施宿もされていたし、その後は造り酒屋を営まれていて、この村道を利用し荷車で町へ酒を運んでいたとのことでした。

この二つの道標が連動して在ることは、

旅人の往来もかなりあり賑わっていたことを示しているのではないのでしょうか。

「右ひだみち 左ふくをかみち」

本郷地内、新しい国道256の下野への下り端左側に石壇があり古道が奥へ直進しています。その細道を奥へ数十mほど進むと右脇に道標があり、「右ひだみち、左ふくをかみち」と記されています。典型的な追分三叉路の道標で、雰囲気のある場所といえます。



「右ひだみち」は、国道256と呉川を横切り向かいの田口宅脇を通過して川上アオナシ(字名)に至り、川上白山神社下から田瀬南宮神社へと延びる通称「スグジミチ(ひだみち)」へ通じることをさしています。田口宅の玄関は、今は国道側ですが、かつてはこの「右ひだみち」側にあったと聞いています。

「左ふくをかみち」は、呉川沿いに下り、途中で

「しものみち」へ分かれています。

「しものみち」は下野庚申堂を目指す人でたいへんに賑わった道だそうです。また、この

「ふくおかみち」をかけたの「中山道」と記す古文書もあると聞きます。苗木方面からお薬師さまを目指したか、坂下のまちに入り前述の「左ハ信州田立道」で木曾へ下って行く道と考えられます。



↑ 右ひだみち、
左ふくをかみち

「右ハ當村山道 左ハ川上ひだ道」

丸十商店から松源地自治会を貫き阿弥陀瀬に至る古道が、旧坂川鉄道軌道跡の道路と出会う三叉路脇に古い道標があります。この道標は劣化が進み



上手く確認できずにいましたが、道標脇の吉村さんから鮮明な写真を見せていただくことができました。「左ハ川上ひだ道」

「右ハ當村山道」と確認できました。「川上ひだ道」は川上白山町、小野沢、すぐ

じ道で田瀬へと続く道を指しているようです。吉村さん宅では、自宅前を飛驒道が通っていたと伝えられているとのこと。この三叉路が坂下の町から飛驒方面への出口であることを表していると思われます。

「當村山道」は阿弥陀瀬奥部へ誘う道でしょうか。

これまでに紹介したものの他にも二つの道標を確認しています。

「右やくしみち 左しものみち」

今は坂下公民館駐車場道路側の「高峰山を望む碑」右となりにある「右やくしみち、左しものみち」と刻まれた比較的新しい道標です。何処から移動された道標でしょうか。上野本郷地内と聞きますが、不明です。推測ですが、いつ頃か国道256号が整備され坂下駅前より濃飛バスが下野方面へ通っていました。

本郷地内に薬師口というバス停がありましたが、そこにあるのがふさわしく思われます。



上野本郷地内に
あった道標 →

「下野庚申^{こうしん}・・・」

二つ目は、小野沢川改修工事の折に拾い上げられた道標です。小野沢地区と下野地区の境近くで見つけられたもので「下野庚申・・・」と刻まれます。下野庚申様は1620年頃よりあり、坂下村へも庚申信仰が広がります。1700年代には大変盛んになり坂下からも大勢お参りしたようです。この際には、本郷薬師様も必ずお参りしたそうです。田瀬方面からの参拝者を小野沢川沿いの路傍にあって下野庚申堂へと誘う道標であったものと考えられます。



↑小野沢川改修工事で見つけた道標